

## NPC2016 参加報告

－若手研究者の国際会議参加の勧め－

株式会社東芝 根岸孝次

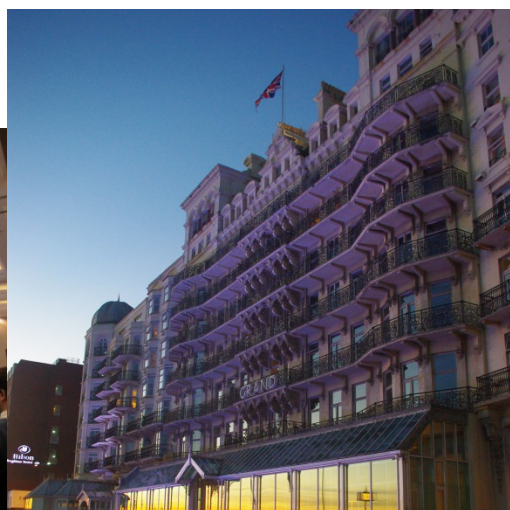
2016年10月2~7日にイギリス ブライトンにおいて開催された第20回水化学国際会議2016 (20<sup>th</sup> Nuclear Plant Chemistry Conference 2016, 20<sup>th</sup> NPC2016)に参加してきました。ブライトンはリゾート地とあって白亜の伝統的な建物が並ぶきれいな街並みでした。会場となったホテルも豪華な造りで美しいブライトンの海岸を一望できる絶好の立地でした。気温は10℃台前半と低めでしたが、雨が多いことで有名なイギリスでは珍しく会期中はずっと良い天気で日中は日差しが強く暖かくて過ごしやすかったです。このような恵まれた環境の中で20か国から総勢243名により活発な議論が行われ、非常に有意義で充実した時間を過ごせました。

本会議への参加は前回札幌で開催されたNPC2014に続き2回目で、前回と同様、口頭での発表機会を頂きました。英語でのプレゼンテーションはまだまだ経験不足で緊張しましたが、前回よりも質疑応答セッションで外国の参加者から質問に対応することができ自分の成長を感じることができました。なにより、質疑応答を通して海外の研究者から自分の研究成果に対して意見やアドバイス等を頂けることは今後研究を進める上で励みになり、またとても有益な情報となりました。

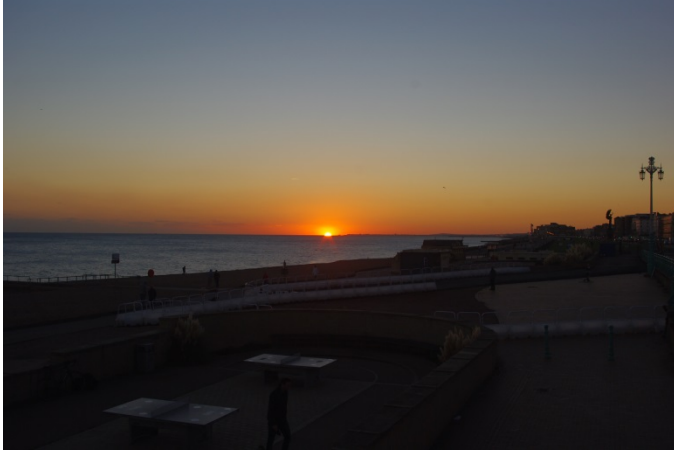
今回は、会議以外でも海外研究機関の若手と交流する機会があり、情報の発信・収集という業務的な目的以外にも、国際交流という国際会議の重要な目的を認識することができました。現状、研究開発業務において誰もが海外研究機関との共同研究に携われるほど十分なチャンスがあるとは言えないため、国際学会への参加は若手研究者が国際感覚を磨くための貴重な機会となっています。福島事故の収束を含め、原子力技術が発展を遂げるため国際的な連携が今後益々重要視されていくなか、後輩たちにも本会議を含めた国際会議へ積極的に参加することを勧めたいと思います。



学会会場の様子



会場となったホテルの外観



ブライトンの海岸風景